

第1学年 国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
学 級：第1学年〇組 〇名
場 所：1年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇 印

1 単元名（題材名）

詩の表現の特徴とその効果について考えたことを伝え合い、自分の表現に生かそう。
（「詩の世界」光村図書 第1学年）

2 単元（題材）の目標【育成を目指す資質・能力】

- ・表現の特徴やその効果について関心を持ち、詩を読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）
- ・詩の表現の特徴とその効果について、自分の考えをもつことができる。（読むこと）
- ・比喩や倒置、反復などの技法や書き表し方の工夫を理解することができる。

（伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項）

3 単元について

（1） 児童生徒の実態

学年には支援が必要な生徒がおり、文章を読むことに苦手意識をもつ生徒もいる。少し難しい表現になると考えることをあきらめたり、自分の考えに自信がもてなかったりする生徒も多いが、グループやペアで話すよう促すと、素直に話し合っ分分ろうとしている。

表現の仕方の工夫や技法については、小学校でもすでに学習しているが、名称と具体的な表現を結び付けることはできていない。この学習で、表現の技法を名称と結び付けて理解し、自分の表現活動にも生かせるようにしたい。

（2） 教材について

4月に工藤直子の詩「のはらうた」を学習し、作品のイメージを表現できるような朗読の工夫について考えた。しかし、詩独特の比喩や表現にはまだ慣れていない。

この単元には、作者の独特の感性で捉えた感動を、比喩や反復等の技法やリズムの工夫で表した詩が示されており、自分の捉え方を交流しやすい教材である。

効果的な表現技法や作者の新しい表現の仕方を学ぶことで今後の学習に生かせるような教材である。

（3） 指導について

小学校で既習のなじみのある詩を取り上げて、表現の工夫や技法、その効果を確認し、名称を理解させることで、小学校からの継続性を大事にする。

グループでお互いに考えたこと、感じたことを伝え合うことで、はじめは「よくわからない」と思っていた生徒が、「グループの人と、同じようなことを感じていた」「この人の意見を聞いて納得できた」など、自信をもって意見を言えるようにさせたい。

発表の場面では、同じ詩を、違う観点から考えている班を並べたり、違う詩を取り上げているが、「書き方」や「リズム」など、同じ観点で説明している班を並べたりすることで、比較しやすくし、それぞれの詩をより深く味わえるようにさせたい。

(4) 「読み解く力」に関わる目指す生徒の姿とその育成のための手立て

はじめに小学校で既習の詩を取り上げ、そこに使われている表現技法や作者の独特の捉え方を確認し、本単元の詩を読むときの観点を共通認識させる。

普段の語彙にない表現の詩、作者の独特な感性で捉えた詩を取り上げ、すぐには意図が読み取れない詩を、その表現にこだわって読み、お互いを感じたことや考えたことを伝え合う場を設定することで、情報を確かに取り出したり、比較し、関連付けて整理したりする必然性をもたせたい。特に共通点や相違点を整理しながら理解を深められるような聞き方を工夫させたい。

また、振り返りの場面で既習の語句を自分で説明し直させる等、知識の再構築をさせたいと考える。

4 単元（題材）の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
詩の表現の特徴や、その効果、それぞれの詩のよさを進んで見つけようとしている。	詩の表現の工夫を具体的に取り上げて、その効果や詩のおもしろさを説明することができる。	比喩や反復などの表現の技法、一語一語の書き方などの効果を理解して読んでいる。

5 単元の指導と評価の計画（全5時間）

次	時	主たる学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の見通しをもつ。 ・詩のよさを味わう観点を整理するために、小学校で既習の詩について表現の工夫や技法、その効果を確認し、名称を理解する。 ・4人グループで、教科書、ワークに掲載されている複数の詩を読み、一つを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の「〇〇市の詩コンクール」の優秀作品を示し、詩の表現の仕方について学習することを夏休みの課題である詩の創作につなげる。 ・表現技法とその名称を確認する。 ・既習の詩を振り返り、詩を読むときの観点を確認する。 ・音読するよう助言する。 ・教科書の詩だけでなく、表現技法や書き方、リズムなど、さまざまな工夫が、効果的に使われている詩を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> □具体的な名称と結び付けて、表現の工夫を理解している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで選んだ詩について他の詩と比較したその詩のよさについて話し合う。 ・発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの観点を示しておく。（表現の技法、リズム、表記、イメージ、響きなどと、その効果） ・模造紙を使って説明の準備をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> □詩の表現の仕方の工夫や効果を進んで見つけようとしている。 □<u>比喩や反復などの表現の技法、一語一語の書き方などの効果を理解して読んでいる。</u>

	3 ～ 4 本時	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、選んだ詩について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ詩を、違う側面から捉えている発表を聞き、より深く読み取る。 違う詩を同じ観点で説明しているグループの発表を聞き、それぞれのグループが見つけた詩のよさの共通点、相違点を整理しながら聞かせる。 	<input type="checkbox"/> 詩の表現の工夫を具体的に取 り上げて、その効果や詩のおも しろさを説明している。 <input type="checkbox"/> 自分が考えた詩のよさと比較 し、関連付けてより深く詩を捉 えている。
二	5	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫や効果、詩の読み 味わい方について、考えをまと める。 自分の詩に生かしたい表現や 技法をメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した表現の工夫について 正しい名称を使ってまとめら れているか、気を付ける。 	<input type="checkbox"/> 具体的な名称と結び付けて表 現の工夫を理解している。

6 本時の目標（本時：4／5時間目）

・表現の技法や表記の仕方などの効果を理解して読むことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（読むこと）

7 本時の評価規準

・表現の効果を具体的な表現と結び付けることができる。（読む能力）

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の発表でわかったことを振りかえる。 本時のめあて「内容を具体的に書く」の確認、発表の観点（表現の技法、リズム、表記、イメージ、ひびきなど）の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の発表を想起できるよう、前時の発表用掲示物を提示する。 単元の流れや観点がわかるよう、掲示物で視覚支援をする。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ●同一の詩を違う観点から説明するものの発表をする。 二つのグループが選んだ詩の表現の工夫とその効果を捉えながら発表を聞き、質問をしたり、意見を述べたりする。 発表を聞いて、二つのグループの共通点や相違点、自分が感じたことと比較し、わかったこと、感じたこと、より理解が深まったことを書く。 ●別の詩を同じ観点で捉えたものの発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点に沿って発表を聞くことで、自分の考えと比較しやすくする。 <input type="checkbox"/> 詩の表現の工夫を具体的に取 り上げて、その 効果や詩のおもしろさを説明している。 <input type="checkbox"/> 比喻や反復などの表現の技法、一語一語の書 き方などの効果を理解して読んでいる。 別の詩を同じ観点で考えることで、それぞれの詩の特徴を捉えやすくする。

	<p>・二つの詩や、自分たちのグループが選んだ詩を比較しながら発表を聞き、質問をしたり、意見を述べたりする。</p> <p>・発表された二つの詩や、自分たちが選んだ詩と比較し、それぞれの詩の表現の工夫とその効果について、わかったこと、感じたこと、より理解が深まったことを書く。</p>	<p><u>□詩の表現の工夫を具体的に挙げて、その効果やそれぞれの詩のよさを説明している。</u></p> <p><u>□比喻や反復などの表現の技法、一語一語の書き方などの効果を二つの詩で比較しながら理解して読んでいる。</u></p>
終末	<p>・振り返りプリントに、本時の発表を聞いて分かった工夫や技法を自分の言葉で書く。</p>	<p><u>□自分なりに理解し、知識を再構築している。</u></p>

9 授業参観の視点

- ・二つの詩を比較することでどう読み取りが深まるか。A②
- ・クラスメイトが「分からない」と言うことを、どう言葉を尽くして説明するか。それを理解しようとするか。B②